

自閉症・情緒障害特別支援学級における 授業づくり3つのポイント

自立課題学習の
場面の設定

授業構成表の
活用

学習環境の
工夫

1. 自立課題学習の場面の設定について
2. 授業構成表の活用について
3. 学習環境の工夫について
4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリスト

自閉症・情緒障害特別支援学級で知的障害がない場合、児童生徒の実態に応じて教科指導を行うことが前提ですが、基本的には対象となる児童生徒の当該学年の教科指導を行うこととなります。在籍する児童生徒の学年が2学年以上になると、複数学年の内容を同時に指導する必要があり、その際には様々な工夫等を行い、効果的な授業づくりをすることが大切です。

そこで、教育センター学びの丘が提案する自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり3つのポイントと取組例を紹介します。また、この授業づくり3つのポイントによるチェックリストを日頃の授業の振り返り等に活用してください。

令和4年3月
和歌山県教育センター 学びの丘





1. 自立課題学習の場面の設定

- 国語や算数等の教科指導では個々の実態に応じた指導が必要ですが、1人の児童生徒に関わっている間、他の児童生徒にとって待ち時間になっていないでしょうか。
- 複数の児童生徒に臨機応変に対応して指導していますが、各授業のめあてを達成する指導はできているでしょうか。
- 障害の特性に配慮しつつ、児童生徒が1人で学習に向かう力（学習態勢）を身に付けるためには、どのような指導方法が効果的でしょうか。



このような課題を解決するために、1つめのポイントとして『自立課題学習』の場面の設定を提案します。

自立課題学習は、「どこで」「何を」「どれだけ行うのか」「終わったら何をするのか」を視覚的に提示し、環境整備をすることで、児童生徒がそれらを手がかりにして、自ら主体的に取り組むことを目指した学習です。この自立課題学習の場面を1時間の授業中に児童生徒の実態や学習内容に応じて設定します。

一定時間、1人で学習に取り組む学習態勢を身に付けることは、障害のある児童生徒の自立活動の目標としても捉えることができます。

*自立活動の内容（6区分27項目）(注1)から考えられる項目

- (例) 2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- 4 環境の把握 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

注1:特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）



ヒント

- ◎自立課題学習の課題の内容は、児童生徒が確実に自力解決できる難易度や量となるよう配慮しましょう。
- ◎可能であれば、課題として本時の学習に関連する内容を取り上げましょう。教科書を活用することが効果的です。
- ◎自立課題学習に取り組むための準備・後片付けや答え合わせも児童生徒の活動として取り入れましょう。何をするのか見通しをもつ手がかりとなります。
- ◎自立課題学習で達成できたことを視覚的に評価する工夫をしましょう。シール等を用いて頑張った様子が客観的に確認できることにより自己肯定感が高まります。

1. 自立課題学習の場面の設定

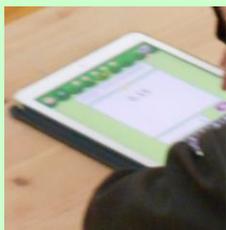
取組事例



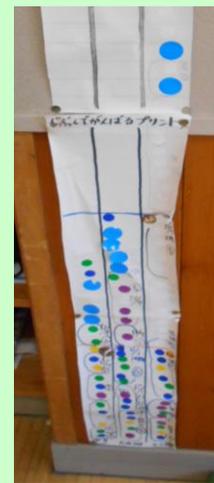
課題として、100マスや36マス計算を取り入れました。プリントや答えの置き場所を決めることで児童自ら準備をして取り組むことができました。児童がタイマーで時間を計り、記録するようにしました。



児童が1人で自立課題学習を進めることができるよう、ホワイトボードに、学習のルールや手順、ヒント等を視覚的に示しました。



タブレットやPCに興味関心がある、操作が得意な児童には自立課題学習の場面で取り入れ、意欲的に取り組む様子が見られました。



プリント学習に取り組んだ枚数分、シールをタワー型の台紙に貼りました。頑張りを高さで確認でき、教室に来た他の先生からも褒めてもらう機会がありました。



自立課題学習では、個別学習プリントの答え合わせも児童が行い、自己評価をできるようにしました。

予定の確認⇒教材の準備⇒学習⇒答え合わせ⇒自己評価⇒他者評価⇒片付け、と見通しがもてるようにルーティン化しました。



児童が自立課題学習に取り組んでいる場面で、別の児童に直接指導を行います。本時のめあてを達成し、付けたい力が身に付くように通常の学級の授業形態を意識し、板書等も配慮しました。





2. 授業構成表の活用

- 複数学年の児童生徒に指導を行う時に、授業の流れをどのように構成するとよいのでしょうか。
- 児童生徒に学習の見通しをもたせることができるように、授業の流れをどう知らせたらいいのでしょうか。
- 1時間の授業で、「自分1人で学習する時間」「先生と一緒に学習する時間」「先生を呼んでもいい時間」等を明確にし、児童生徒に分かりやすく指示できているのでしょうか。



このような課題を解決するために、2つめのポイントとして『授業構成表』の活用を提案します。

授業構成表は、複数学年（異なる単元）の指導を行う場合に、複式授業のように直接指導や間接指導、自立課題学習等の場面が分かるように、活動をユニットとして示すものです。

教師が指導略案のように活用することで、自身の動きを確認することができます。児童生徒に見通しをもたせることで、集中力の持続、気持ちの調整や意欲の向上を図ることなどを自立活動の目標として捉えることができます。

*自立活動の内容（6区分27項目）(注1)から考えられる項目

- （例）2 心理的な安定（1）情緒の安定に関すること
- 2 心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関すること
- 4 環境の把握（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

注1：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）



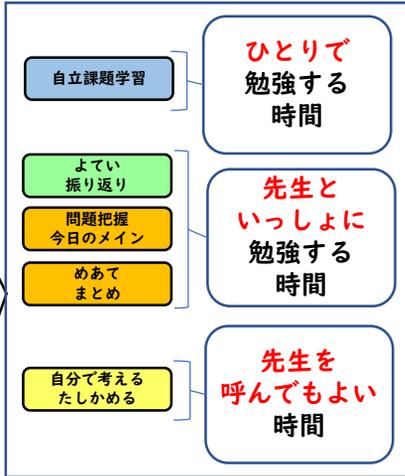
ヒント

- ◎単元名やめあて等の記入、児童生徒にとって分かりやすい活動内容の表記や色分け等の工夫により、児童生徒の主体性や意欲の向上に繋がります。
- ◎授業の導入や終末に、児童生徒全員で取り組む共同学習を取り入れることも効果的です。
- ◎児童生徒には個々の実態に応じて、個別又は全体の授業構成表を提示します。
- ◎授業の導入で児童生徒と一緒に本時の授業構成表を確認します。また、終末で振り返りにも活用することができます。

2. 授業構成表の活用

- ◎授業の導入・展開・終末において、各学年のめあてや問題把握、練習、確認等の学習活動と『自立課題学習』の場面を表に示します。
- ◎児童生徒の実態や授業内容を考慮して、自立課題学習の場面を設定します。

学習内容ではなく、**学習活動のまとめ**で示しています。

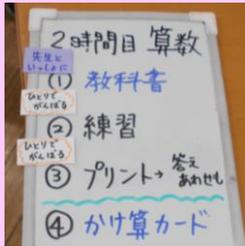


取組事例

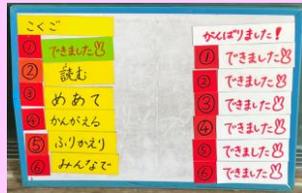
3学年が在籍する学級の授業構成表の例

学年	1年生	3年生	5年生
単元名	大きいかず	三角形	円と多角形
めあて	ぼうのかずがわかるようにならべてかんがえよう。	辺の長さに目をつけて、なかまに分けよう。	六角形の辺や長さや角の大きさを調べよう。

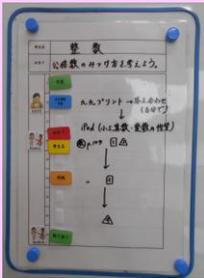
時間	よてい		
5	問題把握	自立課題学習	自立課題学習
10	めあて		問題把握
15	自立課題学習	問題把握	めあて
20			めあて
25	今日のメイン	自分で考える	自分で考える
30	まとめ		
35	たしかめる	今日のメイン	今日のメイン
40		まとめ	まとめ
45	振り返り		



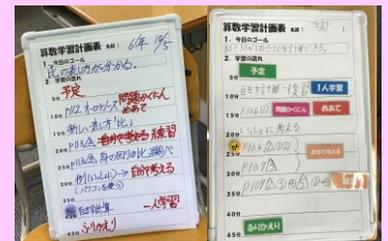
児童の理解度に合わせて、活動内容をシンプルに示しました。



マグネットのカードで構成表を提示しました。1つの活動を終わるとカードを裏向きに貼ります。取り組んだことが視覚的に分かるように工夫しました。



マジックテープを使って学習活動のカードを作成しました。毎時間の掲示用の構成表が作成しやすくなりました。先生と一緒に勉強する、一人で勉強するというイラストも貼って児童が理解しやすい工夫をしました。



教科書のページを授業構成表に記載しました。導入で、児童が自分の構成表をノートに書き写す取組も行いました。

3. 学習環境の工夫



- 自閉症のある児童生徒の特性に配慮した学習環境には、どのような工夫があるのでしょうか。
- 児童生徒が学習に集中できる学習環境にするには、どうしたらよいのでしょうか。
- 教室や校内にある物を上手く利用することはできないのでしょうか。
- 学習環境の工夫の他に、児童生徒に支援を行う上でどのようなことを大切にするとよいのでしょうか。



このような課題を解決するために、3つめのポイントとして『学習環境の工夫』を提案します。

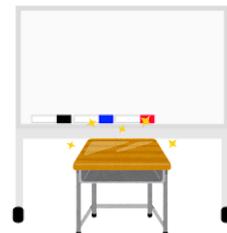
自閉症のある児童生徒の特性に配慮した学習環境の一つとして、構造化の考え方がよく取り入れられます。物理的構造化、時間的構造化（スケジュール）、視覚化、ルーティン化等があります。

自立課題学習の場面で構造化を適切に行い、人的支援だけでなく物理的支援へと段階的に移行していきることができるようにすることが大切です。学習環境を児童生徒の実態に応じて工夫改善することにより、児童生徒が主体的に授業に参加できることを自立活動の目標として捉えることができます。

*自立活動の内容（6区分27項目）（注1）から考えられる項目

- （例）1 健康の保持（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
- 4 環境の把握（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

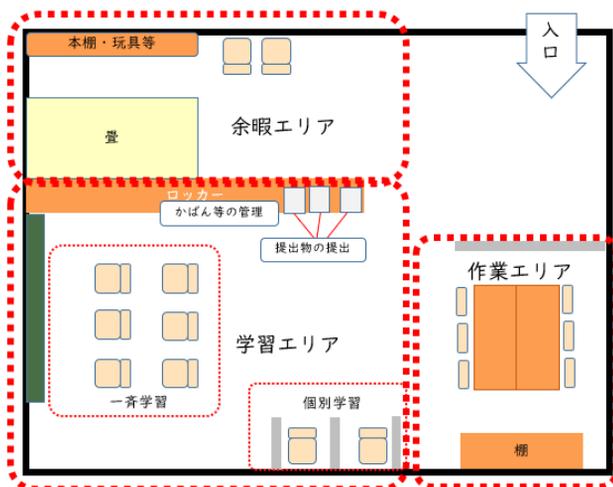
注1：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）



ヒント

- ◎「この場所では何をやる」というように、場所と活動を固定すると活動内容が明確になります。
- ◎教室にあるホワイトボードや机、棚、かご等を上手く利用し、構造化を行いましょう。児童生徒の状況を確認し、見直すことも必要です。
- ◎目的をもって、座席から立って移動する機会を積極的に作りましょう。
- ◎教師も環境要因の一つであると考え、教師の動きや指示、言葉かけが多すぎないように、配慮しましょう。

3. 学習環境の工夫



教室づくりのポイント

- ①活動と場所の一致
- ②余暇や休憩時に利用できるスペースの確保
- ③安全への配慮
- ④活動しやすい動線
- ⑤置き場所の表示

1つの場所に1つの目的を決めるのがポイントです。どこでどんな活動をするのかを視覚的に分かりやすく示しましょう。

取組事例



机の前にホワイトボードを設置し、授業構成表等、授業に必要なものを掲示しました。授業中、他の児童の様子が気にならないようにパーテーションとしても活用しました。



学級で全員が使用する道具類は、教室の動線を意識しながら、分かりやすい場所にまとめました。棚等にはラベリングを行い、児童が整理しやすいようにしました。



机の横の棚を離れた場所に置き、教材の出し入れ時に児童が移動するようにしました。目的をもって動く機会があると集中力が高まります。

自立課題学習で取り組んだプリントを答え合わせするコーナーを作りました。児童はそこに移動して答え合わせをします。



リラックススペース。休み時間等はゲームをして過ごす場所として活用しました。時にはクールダウンスペースにもなります。



4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリストNo.1

自身の授業や教室環境等について、授業づくり3つのポイントでチェックしてみま
しょう。

(◎：できている ○：少しはできている △：あまりできていない)



	チェック内容	評価
自立課題学習の場面の設定	○児童生徒の実態に応じた課題設定ができている。	◎・○・△
	○課題の難易度・量は児童生徒が自力解決できるものを準備している。	◎・○・△
	○児童生徒の興味・関心のある内容となっている。	◎・○・△
	○児童がICTを活用している。	◎・○・△
	○自立課題学習の準備や後片付けを児童生徒が行っている。	◎・○・△
	○児童生徒が自ら答え合わせ等をしている。	◎・○・△
	○評価を視覚化し、児童生徒が達成感を実感できるよう工夫している。	◎・○・△
	○自力で取り組めるように支援ツール（教材・教具）を準備している。	◎・○・△
	○「どこで」「何を」「どれだけ行うのか」「終わったら何をするのか」を視覚的に提示している。	◎・○・△
	○児童生徒が集中して取り組んでいる。	◎・○・△
授業構成表の活用	○めあてを記入している。	◎・○・△
	○授業者の1時間の動きが明確になっている。	◎・○・△
	○児童生徒が学習活動の見通しを持っている。	◎・○・△
	○授業の導入で児童生徒と一緒に1時間の流れ（スケジュール）を確認している。	◎・○・△
	○授業中、黒板やホワイトボード等に掲示している。	◎・○・△
	○児童生徒の実態に応じた提示の工夫（個別・全体）をしている。	◎・○・△
	○授業の終わりに振り返りとして活用している。	◎・○・△
	○児童生徒に分かりやすい表記にしている。	◎・○・△
	○授業構成表に示したように授業が進んでいる。	◎・○・△

4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリストNo.2



(◎：できている ○：少しはできている △：あまりできていない)

	チェック内容	評価
学習環境の工夫	○「どこで何をするか」という場所と活動を固定化し、明確にしている。	◎・○・△
	○ホワイトボード等を利用し、個別学習のスペースを作っている。	◎・○・△
	○集中しにくい時などに落ち着けるよう休憩スペースがある。	◎・○・△
	○学級で共有して使う道具等を置く場所を決め、ラベリングしている。	◎・○・△
	○児童生徒の動きを配慮し、棚やプリント提出かごの置き方を工夫している。	◎・○・△
	○授業でのルールを視覚的に掲示している。	◎・○・△
	○既習事項や学習のヒントを前もって板書等で示している。	◎・○・△
	○分かりやすい指示を心掛け、指示や言葉かけが多くなならないよう留意している。	◎・○・△
	○直接（個別）指導の際に、児童生徒との距離が近くなりすぎないように配慮している。	◎・○・△
	○授業者の動きが多くなり、児童生徒が受け身にならないよう配慮している。	◎・○・△
その他	○落ち着かない時等にどうすればいいか、児童生徒とルールを決めている。	◎・○・△
	○学級全員で取り組める活動を設定している。	◎・○・△
	○授業内容をはじめ、交流学級の授業とのつながりを意識している。	◎・○・△
	○直接指導では板書を行い、通常の学級の指導形態を意識している。	◎・○・△
	○他の教職員に授業を参観してもらう機会を積極的に設けている。	◎・○・△

※「授業づくり3つのポイントによるチェックリスト」の項目は、自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会のメンバーが授業実践を通して工夫した点を基に作成しました。





参考資料～さらに学びを深めるために～

和歌山県教育センター学びの丘作成 特別支援教育資料

<http://www.manabi.wakayama-c.ed.jp/tokusi/tokusi.html>



初めて特別支援学級を担当する先生のための
スタートガイド



初めて特別支援学級を担当する先生のための
自立活動の指導



授業づくりについて知りたい

国立特別支援教育総合研究所作成



知的障害特別支援学級担任
のための授業づくりサポ
ートキット (小学校編)
すけっと



インターネット講義を受けたい

NISE学びラボ



https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online



令和3年度自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会

協力教員 田辺市特別支援教育研究会会員 (自閉症・情緒障害特別支援学級担当)

田辺市立鮎川小学校	教諭	小田 奈都美
田辺市立稲成小学校	教諭	物部 瞳
田辺市立新庄小学校	教諭	和田 友里恵
田辺市立中辺路小学校	教諭	井谷 圭利
田辺市立三栖小学校	教諭	澤田 朋実

指導助言 田辺市教育委員会学校教育課	指導主事	中谷 賢行
和歌山県教育センター学びの丘	教育企画員	中元 晶子
研究開発課	指導主事	草羽 信幸
	指導主事	鈴木 真紀
	研修員	三木 明日香